

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ 意見まとめ

地区	塩津地区	回数	第2回
日時	平成29年8月20日（日） 午後1時～午後3時30分		
会場	塩津公民館 講義室	参加者数	26名

1. 公共施設マネジメントについて

ワークショップで語られる意見は理想だと思うので、それらを全て実現しようとするコストがかかってしまう。限られた税金の中で何ができるのかを考え、実現に向けて現実的な話をする必要があるのではないか。

- ・ ワークショップでは理想を話しているのですが、それら全てを実現しようとする結局コストがかかってしまうことになる。どこまで理想に近づけた再配置プランになるのか疑問だ。
- ・ 理想を語るのではなく、限られた税金の中で何ができるのかを考え、実現に向けて現実的な話をしていきたい。

人口が減る前提で考えているが、もし今後人口が増えた場合に公共施設が足りなくなるとは困る。全体の人口は減っていても高齢者は増え、ある時期を境に減り始めるという推計も踏まえると、時間軸も考慮しながら、人口が増えた場合でも柔軟な対応ができるように考えておくべきではないか。

- ・ 人口が減る前提で考えているが、もし人口が増えた場合に公共施設が足りなくなるといことがない様、柔軟な対応ができるように考えておくべきではないか。
- ・ 人口は減少するが高齢者は増加していく。また、ある一定の年月が過ぎると高齢者は減り始める。そういった人口の推移を踏まえ、時間軸を考慮しながら公共施設のマネジメントを検討する必要がある。

塩津地区の人口が減少していく予測になっているが、その要因を分析し、改善策を考える必要がある。推計の考え方や人口減少の理由を知りたい。

- ・ 塩津地区の人口予測が出ているが、どうしてこのような数値になっているのか、考え方を知りたい。塩津地区の人口減少の原因を分析し、それを改善するような対応策を考える必要があると考えているので、地区の人口減少の理由を知りたい。

市全体としての長期的な予測や将来ビジョンを見据え、その中に塩津地区を位置づけて考えるべきではないか。学校の統廃合など、塩津地区のことだけを考えれば良いわけではない問題もある。

- ・ 第1回、第2回で提示された塩津地区の公共施設のみで考えるのか。市全体としての長期的な予測や将来ビジョンを見据え、その中に塩津地区を位置づけて考えるべきではないか。
- ・ 学校を統廃合したら1クラスの数が増え、教育環境が悪くなるのではないか。市の基本的な方針はどうなっているのか。塩津地区では小学校も中学校も1つしかないので統廃合による影響はないが、このワークショップでは学校の統廃合についてこの地区のことだけを考えれば良いのか。市全体のことを考えた上で自分の地域のことを考えた方がいいのか。

2. 課題解決に向けた視点

■ 視点全般

8つの視点全てを同等に重視するのは難しいだろう。案を選択する際には、評価する優先順位を決める必要があると思う。

- ・ 8つの視点全てを同等に重視するのは難しいだろう。案を選択する際には、評価する優先順位を決める必要があると思う。

■ 8つの視点ごとの課題と解決策

①地区の活性化（まちづくり）

祭りなどの地域行事が総代区ごとに行われているので地区全体としての一体感がないのに加え、参加者が高齢化し、子育て世代が参加しなくなってきている。公共施設を複合化することで行事や活動を一体的にできる場を作り、活性化に結び付けられると良い。地域に関心のある若い世代もいるので、例えば学校を核にした複合施設を作れば、子どもから親の世代までが自ずと集まる場になるのではないか。

- ・ 現在、お祭りも総代区ごとに実施していて、塩津地区全体としての一体感がないと感じている。施設の再編を機に、お祭りなどのイベントや地域活動を一体的にできるようにしたい。複合化などによって公共施設を整備することで、塩津地区全体がひとつにまとまるイベントなどができる様になり、活性化に結び付けられると良い。
- ・ 祭りなど地域行事への参加者が高齢化している。現在子育て中の親世代が地域行事に参加しなくなってきており、将来的に地域行事への関心が更に低下することが予想される。そもそも公民館の存在や何をする施設なのかも知らない人がいる。
- ・ 小中学校に通っている子ども達の親世代は、生まれも育ちも塩津地区で地元で愛着のある人が多い。そういう人達は地域活動にも熱心である。公共施設を複合化するのであれば学校を核にして、そこにお祭りなどの地域のイベントや地域活動ができる機能を作れば、子どもから親の世代までが自ずとそこに集い、公共施設のことを考える様になり、元気な街になるのではないか。

駅周辺などに集客性のある、地区の顔となる施設を整備し、情報発信をすることで、地区

の特徴をつくり、電車の利用者数の増加や地域活性化につなげたい。新しく施設を作らなくても、既存施設を活用して場をつくることも可能だろう。

- ・ 集客性のある施設を駅周辺に整備することで、電車の利用者数の増加や地域活性化につなげられると良い。
- ・ 前回塩津は特徴がないという議論があったので、「塩津の顔」となるような場所づくりが必要だと思う。新しく施設をつくる方法もあるが、既存の施設を利用した場所づくりも可能である。その場所で、例えば各地区のお祭りや産業などそれぞれの地区の特徴を紹介してはどうかと考える。公共がやれるのか民間でやるのかわからないが、そういう場所が必要だと思う。

塩津地区内に働いて生活をしていけるような雇用を創出する企業がないことで、人口が流出してしまうのであれば、活性化のためには企業誘致をするのが良い。

- ・ 塩津に雇用はあるのか。塩津で働いて生活をしていけるような雇用を創出する企業が思い当たらない。会社がないことで人口が流出してしまい人口が減少するのであれば、活性化するために塩津地区内に雇用を創出する企業を誘致すると良いのではないか。

②子育てしやすい環境づくり

公立の保育園は施設が老朽化しているだけでなく、延長保育や低年齢児保育の未実施、入園手続きの多さなど、保護者のニーズに応えられていないために園児の数が減っているのではないか。施設をどの様に再編するにしても、ニーズを把握し、それに対応したサービスを提供する必要がある。

- ・ 3歳の娘がいるが、鹿島保育園は良いと思うものの、塩津保育園や塩津北保育園に子供を入れようとは思わない。施設が綺麗ではないし、園児も少ない。保護者のニーズに沿った保育をしていないから魅力を感じない。
- ・ 塩津地区では、私立の保育園は0歳児からの預かりや延長保育をしている。現在、公立では行っていないがニーズはあると思う。
- ・ 塩津保育園や塩津北保育園は延長保育や低年齢児保育がない等、魅力がないために定員割れしているのではないか。施設をどの様に再編するにしても、定員割れしないようにするには利用者の要望に応えた魅力ある園にする必要がある。
- ・ 低年齢児保育をしている鹿島こども園に越境で通っている子供がいるが、どのくらいの数いるのかわかれば、塩津保育園や塩津北保育園で低年齢児保育を実施すべきかどうかの判断ができるだろう。
- ・ 塩津地区の北側の人にとっては、通いやすい塩津北保育園ができたのは嬉しいことだ。ただ、延長保育をしてほしいという声は多い。
- ・ 公立保育園は、各家庭の年収によって保育料が異なり不公平だと感じている。また、事務手続きも手間がかかる。一方で私立保育園は保育料も一定で、手続きも効率的である。保育料の公平性、事務手続きの効率性も配慮する項目として入れて良いのではないか。

- ・ 私立に比べると公立の保育園は料金やサービスで新しい取り組みが実施されていない。利用者の声を把握し、サービスを改善していくのが良い。

塩津地区の子どもの状況や保護者のニーズを把握するには、公立保育園のみではなく、私立保育園の園児も含めて考えなければいけない。

- ・ 公立保育園は入園するための条件があり、制限されている。塩津地区の子どもの状況や保護者のニーズを把握するには、私立保育園の園児も含めて考えなければいけない。公立保育園のみでは考えられない。

公立保育園の園児が減っている原因を分析し、利用者の要望に応じていく必要があるが、それができないのであれば全ての保育園を民営化しても良いと思う。

- ・ 子供の数が減るなら公立保育園はなくして私立だけにしても良いのではないか。私立への通園に対して補助金を出せば、そちらの方が費用は安いのではないか。
- ・ なぜ公立の保育園ではなく、私立の保育園に園児が行ってしまうのか。公立は建物が古いからなのか、私立の方がサービスが良いからなのかなど、原因の分析が必要ではないか。公立で良いサービス、運営ができないのならば全部民営化しても良いのではないか。

公立保育園はプログラムを詰め込みすぎず、伸び伸びした保育をしているのが良い点であり、特性だと思うので、集約化、複合化してもそれを失わない様に配慮してほしい。

- ・ 公立保育園はプログラムを詰め込み過ぎず、伸び伸びした保育をしていて良いと感じている。集約、複合してもそのような公立保育園ならではの特性を失わないように配慮してほしい。

塩津、塩津北、鹿島の各保育園はそれぞれに特色があり、地域に密着しているので、徒歩で通える良さや地域とのふれあいも考慮し、複合化や集約化をせずに今のまま存続することを検討してほしい。

- ・ 塩津、塩津北、鹿島の各保育園はそれぞれに特色があり、地域に密着している。集約すれば良いものではないと思うので、徒歩で通える良さや地域とのふれあいも考慮し、今のまま存続することも検討するのが良い。

保育園を集約する必要性を丁寧に説明するとともに、児童館などのアクセスしやすい場所にある施設に集約したり、通園バスを通すことなどでアクセスを確保できれば、徒歩圏内に保育園がなくても市民の理解は得られるのではないか。

- ・ 児童館はアクセスしやすい立地にあるので、将来的には塩津保育園を集約すると良いのではないか。
- ・ 保育園の建て替えが急務である。その際に保育園を集約することになったとしても、人口減少など、集約する必要性を市が丁寧に説明すれば、市民は納得すると思う。必ず徒

歩圏内に作らなければだめだということにはならないのではないかと。通園バスをシニアボランティアで走らせるなど、アクセスを確保する工夫もできる。

保育園と小学校の複合化を進めたり、幼小中一貫校や小中一貫校にすれば、コスト面だけでなく、園児、児童、生徒の世代間交流が深まるという利点がある。

- ・ かつて塩津保育園は塩津小学校内にあり、園児と児童が登下校を共にし、自然と交流できる環境があった。その後、塩津地区の人口が増え、保育園と小学校が分かれた経緯がある。人口減少とともに子ども達の数もかつてと同程度になってきたのであれば、保育園と小学校の複合化を進めれば良いと思う。特にきょうだいがいる家庭が少なくなっているため、異なる年齢の子ども達の間での交流ができるのは良い。
- ・ 幼小中一貫校にすればコスト面だけでなく、園児、児童、生徒の世代間交流が深まるという利点がある。
- ・ 塩津地区に公立小学校と公立中学校が1校ずつしかないため小中一貫校にしやすいのではないかと。これは公共施設の将来を考える際のメリットだと思う。

児童館の児童クラブは現状でも定員いっぱいに入れないと聞いているので、近接した塩津小学校と連携して学校内に児童クラブを設けることを検討するとともに、今後子供の数が増え、増員が必要になった場合にも対応できるだけのスペースを確保する必要がある。

- ・ 児童館の児童クラブは定員いっぱいに入れないと聞いた。塩津小と児童館は近接しているのだから連携できると良い。学校内にも児童クラブを設けることはできないか。
- ・ 児童クラブは未就学児も含めて、今後子どもの数が増えた場合に、増員に対応できるだけのスペースを確保できる様に配慮する必要がある。

市内の発達支援児や日本語学習が必要な生徒を集めて、サービスを提供できるような施設があると良い。

- ・ 発達支援児への支援、日本語学習が必要な生徒の支援を塩津保育園や塩津中学校で実施しているが、蒲郡市内のそのような支援を必要とする対象者を集めてサービスを提供できるような施設があると良い。

③多世代が利用できる場の創出

小、中学校に公民館の機能を複合したり、小学校、児童館、保育園、公民館を複合することができれば、多世代交流が生まれ、高齢者の生きがいにもつながり、地区全体が元気になると思う。学校の空き教室や体育館を公民館としても利用でき、駐車場も共有できるので、無駄がなくコストも削減できる。

- ・ 小中学校に公民館の機能を入れて複合化すれば、多世代交流が生まれ、地区全体が元気になるのではないかと。高齢者の中には、子ども達の遊びや学習に役立つ様々なノウハウ

を持っている方がいる。例えば授業の一環で昔の遊びを子どもたちに伝授することができれば、高齢者の生きがいにもつながるだろう。

- ・ 施設の老朽化に伴って建て直しをするのなら、いっその機会に小学校、児童館、保育園、公民館を複合してはどうか。例えば、こういうワークショップを開催する際には学校の空き教室が利用できるし、授業で使っていない時には調理室等を一般利用できる様になるので無駄がない。駐車場も共用できるだろう。
- ・ 塩津小学校には駐車場スペースがあまりないため、保護者会等で用事がある人が公民館の駐車場を使うので、公民館利用者が困っている。一方、公民館利用者も小学校の体育館を活動に使っている。公民館を小学校に複合化もしくはより近接させれば、駐車場も施設も共有できるので、維持管理費や駐車場の建設費もかからないのではないかと。

公民館は多世代交流の核となる施設だと思うので、民間の喫茶店を入れるなどして開かれた雰囲気を作り、地域の様々な年代、国籍の人が気軽に訪れて交流できる、溜まり場のような施設にしたい。

- ・ 公民館は多世代交流の核となる施設だと思うので、高齢者と子ども達が交流でき、互いに元気になるような公民館であってほしい。
- ・ 公民館を複合化するにせよ単独で維持するにせよ、本や資料を読んだり、気軽にサークル活動に使える様にし、広く一般に開放された雰囲気づくり、場所づくりをしていくのが良い。
- ・ 現在の公民館は階段が高く、古いため「公民館に来て」と呼びかけても誰もこない。今後公民館をつくるならば、単にバリアフリーにすれば良いというわけではない。ガチガチの公民館という行政的なものではなく、民間の喫茶店をいれるなどして、多世代が集まる溜まり場のようなところになりたい。
- ・ 多世代に加え、多民族（多国籍）の人への対応も必要になると思う。
- ・ 半田や武豊を見習って、蒲郡も市として地域のコミュニティサロンに力を入れ、地域の人々が気軽に利用し交流できる場をつくるべきだ。

障がい者や高齢者が不便なく利用できる様に、多世代交流の場にはエレベーターなどを設置し、バリアフリー化する必要がある。

- ・ 多世代交流の場には、障害者や高齢者の方が不便なく利用できる様にエレベーターなどを設置し、バリアフリー化する必要がある。

居場所づくりとしての「いきいきサロン」はまだ始まったばかりで広く知られていないため、現状では高齢者が中心となっている。小さな子どものいるような若い世代にも情報を伝え、訪ねてきてもらえるようになると活性化すると思う。

- ・ 居場所づくりとしての「いきいきサロン」は、地域包括支援センターや社会福祉協議会等が中心となって、各地区の集会所や公民館などで行われているが、始まったばかりで

まだ広く知られていない。本当ならば、若い子どもを連れてお母さんが子どもを少し預けられるようにしたいが、現状では高齢者が中心となっている。若い人にも知ってもらい、訪ねてきてもらえるようになると活性化すると思う。

- ・ 若い世代であるが「いきいきサロン」のことは知らなかった。いずれ自分も必要になるのでこれから考えていきたい。

「いきいきサロン」は社会福祉協議会などに認めてもらえれば補助金が出るが、個人でやろうとすると補助金が出ないので実施できない。補助金の原資は、住民から寄付を募った善意のお金の一部のため、その利用方法として不公平感が出てきている。高齢者のサロンやカフェは、まず地域で志を持った方が地区の総代や区議員に相談し、総代が地域包括支援センターに相談に行き実現することが多い様だ。

- ・ 「いきいきサロン」は、社会福祉協議会等に認めてもらえれば 200 円／人の補助金が出るが、個人でやろうとすると補助金が出ないので実施できない。補助金の原資は、黄色い封筒で皆さんから 1 口 300 円で寄付を募る善意のお金の一部のため、その利用方法として不公平感が出てきている。
- ・ 高齢者の居場所づくりや認知症対応などの地区のニーズ、いろいろな人の思いは、誰がとりまとめをしているのか。「こういうことはできませんか?」「公民館で何かやりませんか?」と呼びかける人がいるのか。
- ・ 高齢者のサロンやカフェは、まず地域で志を持った方が、地区の総代や区議員に相談し、総代が地域包括支援センターに相談に行き実現することが多い様だ。

④安全の確保

小中学校や塩津公民館は老朽化が進んでいるので耐震性に不安がある。小、中学校の耐震化を図ったり、公民館はしおつ児童館などの新しい施設に複合するなどの対策を早急にする必要がある。

- ・ 小中学校の老朽化が進んでいるので一刻も早く耐震化を行ってほしい。
- ・ 耐震性という点から不安がある老朽化した塩津公民館は廃止し、しおつ児童館へ複合化するのが良い。安全の確保もできるのではないかな。

学校に施設を複合する際に、出入口をその他の施設とは別にすれば、学校への不審者侵入対策になる。

- ・ 学校は不審者が侵入することを嫌がるので、施設を複合する際には学校とその他の施設とでは入口を別にして対応すれば良い。

⑤災害時の対応

集約化、複合化によって公共施設の数が増えれば、避難所や避難場所の数が増えることにつながる。災害時対応の視点から考えれば公共施設は減らさず、ある程度分散してい

た方が良い。

- ・ 類似した施設を集約化したり、施設を複合化して機能充実をはかるという目的は理解できるが、災害時対応の視点で考えれば、集約化、複合化することで公共施設が減少することは、避難所や避難場所が減少することにつながるのでは好ましくないと思っている。災害時のことを考えると公共施設はある程度分散していた方が良い。

津波に対応した訓練を実施するとともに、津波時にも使える避難施設の確保が大切だ。

- ・ 津波に対応した訓練を実施するとともに、津波時にも使える避難施設の確保が大切だ。

中学校と小学校は立地が異なるので、津波時には丘の上の中学校、山が崩れて中学校が使えない時は低い土地にある小学校が使えるなど避難所として補完しあえる。小学校と中学校を集約化してどちらかがなくなるとしても、建物と避難所機能は残すべきだ。

- ・ 小学校、中学校の校舎は災害時に避難所として使える。中学校は丘の上、小学校は低い土地にあり、立地が異なるので山が崩れて中学校が使えない時は小学校が使える等補完しあえる。小学校と中学校を集約化してどちらかがなくなるとしても、建物と避難所機能は残すべきだ。

避難所は数を整備するだけでなく、仮設住宅ができるまでの中長期的な避難にも対応できるように、トイレやお風呂などの水回りの衛生面にも配慮する必要がある。避難訓練を充実し、多くの人に参加してもらうことも重要だ。

- ・ 災害時の避難所は数としては十分だと思う。一時的な避難だけではなく仮設住宅ができるまでの中長期的な避難にも対応できるように、トイレやお風呂などの水回りの衛生面にも配慮した施設であることが大切だ。
- ・ 地域ごとに避難訓練が実施されているが参加者が少ない。訓練を充実し多くの方が参加する必要がある。土地の低い所では高台に避難するなどの津波に対応した訓練を実施する必要がある。

災害時の対応は個人では難しいので、地域ぐるみの課題として考える必要がある。

- ・ 災害時の対応は個人では難しいので、地域ぐるみの課題として考える必要がある。

⑥アクセス性への配慮

小学校と中学校を集約化すると、どちらに集約したとしても家から遠い人が出てくるので集約化しない方がいい。

- ・ 小学校と中学校を集約化すると、どちらに集約したとしても家から遠い人が出てくるので集約化しない方がいい。

小中一貫校を作った際でも、小中の学区が同じなので塩津地区内のどの場所からも徒歩で通学できる。アクセス性にも問題がない。

- ・ 小中一貫校を作った際でも、小中の学区が同じなので塩津地区内のどの場所からも徒歩で通学できる。アクセス性にも問題がない。

施設を集約化、複合化するには、そこまで安全安心に行けるように通学路を整備する、公共交通機関を充実させる、集会所などの地域内で身近にある施設の活用を考えるなど、アクセスの確保や代替えになりうる施設との分担を考える必要がある。

- ・ 通学路が整備されていない。施設を集約・複合化するにあたって、そこに安全安心に行けるようにアクセスまで考えないといけない。公共交通機関を充実させたり、集会所などの地域内で身近にある施設の活用を考える。

保育園や子ども園、小学校は車を所有していなかったり、乳幼児の弟妹を抱える家族にとっても送迎しやすい立地にしてほしい。

- ・ 公立保育園については、車がない保護者の立場も考えたアクセス性の配慮も忘れてないでほしい。いくら機能が充実しても通園が不便では意味がない。
- ・ 保育園や子ども園、小学校は、乳幼児の弟妹を抱える家族にとっても送迎しやすい立地にしてほしい。

アクセス性の良さという観点から考えると、車でないと来られない人が多い公民館の設備や機能を充実させるよりも、歩いていける距離にあり、住民により親しまれている集会所を充実させた方が良い。ただ、集会所も老朽化しているので、もし集会所に公民館機能を持たせる場合は、建物を修繕して耐震性を高めることが必須だと思う。

- ・ 塩津公民館には車でないと来ることができない。新しいことをしなくても、全市で90箇所以上あり、歩いていける距離にある集会所の活用を考えた方がよい。お祖母ちゃんが乳母車で行ける近さにある。もっと若い人にも知っていただきたい。
- ・ 公共施設へのアクセス性の観点から、公民館の設備や機能を充実させるよりも、住民により親しまれている集会所を充実させた方がよい。
- ・ 住民にとっては、普段全く利用しない塩津公民館の活用を考えるよりも、よく利用している地区の集会所の活用を考える方が圧倒的に価値がある。この観点から考えていく必要があると思う。
- ・ 集会所の活用を考えることは重要であるが、市は今回の検討対象外としている。もし公民館の機能をより住民に近い集会所に移転をさせるのであれば、市が集会所を修繕して使えるようにすることが必須となる。現在のように老朽化して耐震性もままならない集会所に新たな機能を追加することは行うべきではないと思う。
- ・ 集会所は市の管轄ではなく地域のものであり、地域が管理運営を任されている。ただ、建て替えると何千万円が必要となる。市から老朽化対策への補助はあるそうだ。集会所

については、地域住民が自分たちのものとしてどうしていくかを考える必要がある。

避難所は沿岸部地域から避難しやすい立地になっていることが重要だ。

- ・ 避難所は災害時に備え、沿岸部地域から避難しやすい立地になっていることが重要だ。

⑦将来負担（コスト）の縮減

将来的に人口が減っていく中で、身の丈にあった施設づくり、地域づくりをしていかななくてはならないと思う。公共施設の建設費と維持費をできるだけ抑え、複合化、集約化によって投資を集中させることで、公共施設の機能を充実させれば良いのではないか。

- ・ 塩津地区の人口が今後減少傾向なのであれば、その実態に合わせた公共施設のあり方を検討しなければならない。かつての人口増の時代とは異なるのだから、将来に向けて身の丈にあった施設づくり、地域づくりをしていかななくてはならないと思う。複合化、集約化し、投資を集中させることで公共施設の機能を充実させれば良いのではないか。
- ・ 公共施設の建設費と維持費はできるだけ安い方が良い。

定員割れしている保育園の集約化や幼小中一貫校化ができれば、運営コストも人件費も縮減できるのではないか。住民を管理、運営ボランティアとして活用したり、NPO や市民クラブなどの民間への事業委託を進めることで、ランニングコストを減らすこともできる。

- ・ 塩津保育園と塩津北保育園は大きく定員割れしている。運営費用や人件費のことを考えると、集約化するのが良いのではないか。
- ・ 幼小中一貫校にすれば、運営コストも人件費も縮減できるので良いのではないか。
- ・ ランニングコスト（人件費）も含めて減らす工夫をすることも大切だ。地域の人を管理、運営ボランティアとして活用する方法もある。
- ・ NPO や市民クラブなどの民間への事業委託を進め、市職員が運営することを減らす。

施設を再編することで跡地が発生する場合は、地価の安い方に集約、複合し、高い方の土地を売却することで、予算捻出の助けにできると良い。

- ・ 跡地利用をすることで予算の捻出の助けとするのが良い。施設を複合、集約して跡地が発生する場合は、駅に近いなど、より地価の高い方を売却することでコスト軽減につながる。

使われず、管理も十分されていない小さな公園は別の用途にして土地を有効活用する、倉庫に保管されているが使用していない備品は整理するなど、余計な出費を抑え、無駄なく活用することが大切だ。

- ・ 使われていない小さな公園が多く、市が支援金を出して子供会が草取りをしているが追いつかないので草が生えてしまい、十分な管理がされていない。公園としての使用を

やめ、土地を有効利用してはどうか。

- ・ 使われずに倉庫に保管されている器具、備品などがある。余計な費用をできるだけ抑えるのが良い。

南海トラフ大地震への備えなど、国や県の補助金等を施設改修などに用いることでコスト軽減が図れるのではないか。

- ・ 南海トラフ大地震への備えなど、国や県の補助金等を施設改修などに用いることでコスト軽減が図れるのではないか。

30年後、40年後に必要となる次の老朽化対策費用も視野に入れるのが良い。

- ・ 30年後、40年後に必要となる次の老朽化対策費用も視野に入れるのが良い。

⑧運営の改善

地区の活性化はそこに住む人々の交流にあり、場を作るだけでは交流は生まれない。公民館を様々な人が集まる、たまり場にしていけるためには、ハード＝施設づくりではなく、そこに地域の人を巻き込めるソフト＝運営が重要になる。ソフトを考え、実施できる職員が必要だ。

- ・ 場を作るだけでは交流は生まれないので、運営が大事だ。現状では塩津公民館を地域の人には知らない。
- ・ 地区の活性化は住む人々の交流にあり、公共施設があるから活性化するわけではない。公民館のあるべき姿としては、様々な人が集まれる、たまり場的なものとなるハードとソフトが大切だ。ハード＝施設づくりではなく、そこに地域の人を巻き込めるソフト＝運営を考え、実施できる職員が必要だ。

塩津公民館は、年代や居住地区に関わらず、誰もが参加したくなるような魅力的な行事やプログラムを提供し、広く情報の発信していく必要がある。若い世代の公民館利用率を向上させ、関心を高めることができれば、地域への関心も高まるのではないか。

- ・ 塩津公民館は複合化するにしてもこのまま維持するにしても、若者が来なくなるような公民館にしていきたい。行事等のプログラムが魅力的になるよう工夫する必要があるだろう。
- ・ 塩津公民館は運動会などの塩津地区全体のイベントを行う施設なので、年代や居住地区に関わらず誰もが出向きたくなるようなプログラムを提供していかななくてはならない。
- ・ 公共施設の利用率を上げていくために、運動会、「歩け歩け」、グランドゴルフの他にも、多くの人に参加できる行事や企画を増やしていくのが良い。
- ・ 公民館への関心が低下することで、「そもそも施設自体が必要ないのではないか」という議論になってしまうので、地域の方が関心を向け、参加してもらえる様に、公民館で

実施されている行事やプログラムの情報を発信すると共に、内容を充実させていくのが良い。

- ・ 公民館利用の減少は地域への関心の低下にもつながっている。若い世代の公民館利用率を向上させ、関心を高めるために、公民館で実施されている行事やプログラムの情報発信を行うのが良い。
- ・ 拾石町の盆踊りは参加者が多く世代の幅もある。世代を超えて参加できる企画があると良い。

これまでの公民館利用の仕方の枠を超えて、講座やイベントだけでなく、仕事や会議、自習などの様々な利用ができる場になると良い。

- ・ 公民館の利便性を高めるために、会議や講座、イベントなどの様々な利用ができる施設にすると良い。
- ・ 会社を経営しているが、仕事の際に公民館が使えたらと良いと思う。自習室や貸会議室がある、wi-fi が無料で使えるなど、利用者のニーズに応える運営をして稼働率を上げてはどうか。

市から管理費をもらい、地区の子ども会が中心となって公園の管理などを行っているが、住民の負担を軽減させるためには、市から業者に委託する方が良いと思う。

- ・ 公園の管理などは市から管理費をもらい、地区の子ども会が中心に行っているがなかなか手が回らない。住民の負担を軽減させるためには、市から業者に委託する方が良いと思う。

各総代区にある集会所は地区にとって大切な施設なので、利用率を上げるためにも集会所で実施される企画内容の充実が必要だ。

- ・ 各総代区にある集会所は地区にとって大切な施設なので、利用率を上げるためにも集会所で実施される企画内容の充実が必要だ。

■追加すべき視点

塩津地区には外国人が多いので、外国人（多民族）にとっても安心安全で住みやすいまちにすることが大事である。外国人が増えれば人口減少に歯止めをかけることができ、それをまちの特色にした面白いまちづくりにもつなげられる。「多文化共生」「外国人（多民族）対応」の視点も加えたい。

- ・ 今住んでいる 20 世帯ぐらいのマンションには、中国人、ロシア人等の外国人がいて普通に挨拶する関係ができていく。人口が減っていく中、地域に外国人が多いことを生かして街を面白くできないか。外国人が住みやすい街にし、外国人を誘致するという視点があってもいい。「多文化共生」という視点も加えてはどうか。
- ・ 外国人は公民館活動に参加していないので、「ブラジルの日」など参加しやすくなるよう

なイベントを行ってきっかけを作り、公民館活動に参加してもらえると良い。国際交流団体だけが交流を推進するのではなく、地域ぐるみで取り組めるとなお良い。

- ・ 増加する外国人（多民族）への対応の視点も大事である。外国人を含め、だれにとっても安全安心であることは重要だ。

人口が減ることばかりに着目せず、増加する高齢者への対応をもっと考えるべきではないか。「高齢者、要介護者、障がい者への視点」が欠けている。

- ・ 人口が減ることばかりに着目せず、増加する高齢者への対応をもっと考えるべきではないか。高齢者、要介護者、障がい者への視点が欠けている。例えば、災害時の避難の際には、認知症の人への対処や身体障害者のトイレの使い方にも配慮する必要がある。

3. その他（質問、ワークショップの進め方など）

- ・ 地区利用型7施設の複合化を検討する際、土地や建物が市所有か否かによっては、複合化の足かせになることもあるのではないかと。事前に確認しておきたい。
 - 塩津公民館駐車場、塩津保育園と塩津小学校の一部分は借地であるが、複合化する際にそれらが足かせにならないようにと考えている。（市の回答）
- ・ 児童クラブが定員いっぱいになっていて、4年生以上の子どもは預かってもらえないと聞いたがどのような状況か。
- ・ ワークショップの開催とその内容を伝える「かわら版」の発行は、タイミングを再検討した方がいいのではないかと。市民が「かわら版」でワークショップのことを知り、意見を市に伝えた場合、その意見はワークショップで紹介されるのか。意見を言うタイミングが遅いと、ワークショップは先に進んでしまうので、意見を言っても取り扱われないのではないかと。
 - 市民のご意見は適宜ワークショップに反映していく予定である。（市の回答）
- ・ 資料「第1回のワークショップでいただいたご意見の整理」を見たが、どのように取りまとめられたのか。
 - まず、各グループの意見を、担当のファシリテーターが模造紙等のデータを参考に、また必要な箇所は音声聞き取りした。つぎに代表のファシリテーターが、全グループの意見を整理しとりまとめた。それを市役所が確認した。（ファシリテーターの回答）
- ・ 具体的な施設配置についての案を議論したいので、作成・提示して欲しい。
- ・ ファシリテーターには市の都合の良い意見だけを反映するのではなく、できる限り市民の意向を反映してほしい。そのために複数の会社が請け負う形で導入されているか。
 - 公正性を担保するために中立的なファシリテーターを導入している。複数の会社や個人のファシリテーターが請け負っているのは、1つの会社で調達できなかったため、異なる所属のファシリテーターがチームになって作業をしている。（ファシリテーターの回答）